

## 紅梅キャラメル 景品

本稿では、当館で所蔵している資料の中から、昭和期の子どもと野球にまつわる資料を紹介する。

昭和20年代に販売されていたキャラメル、「紅梅キャラメル」の景品である。

そもそも紅梅キャラメルとは、株式会社紅梅食品が製造していた駄菓子である。

昭和24年11月、水飴・ブドウ糖の統制が解除されると、キャラメルは多数の企業で製造されたが、紅梅キャラメルもそのうちのひとつであった。

他のキャラメルと大きく違ったのはおまけの特徴である。赤い紙製のキャラメル箱を開けると、中から読売巨人軍選手の顔写真が印刷されたカードが出てきて、1チーム分のカードを集めると景品がもらえた。チームを揃えるのは至難の業であったようだ。

昭和24年から昭和34年の約10年間、このおまけ付きの紅梅キャラメルが販売された。

景品は野球にまつわるものが多く、当時高価であったグラブやバットなどをもらうことが出来たため、野球好きの子供たちは夢中になって1箱10円の紅梅キャラメルを買い集めた。



当館所蔵の紅梅キャラメル景品

左上から川上選手お面、バッチ、「少年野球帖」、手ぬぐい、バット

※当館では、おまけカードは収蔵しておりません。

当館では、紅梅キャラメルの景品を所蔵している。(写真参照)

バットには元気よく遊んだ跡が多く残っており、手ぬぐいは使われることがなかったのかきれいな状態で残っている。

すべての景品は、夢中にカードを集めた情熱の結晶であり、資料からはかつての子供たちの喜びや思い出があふれてくる。

公益財団法人 野球殿堂博物館  
学芸員 太田若葉